

論文審査の結果の要旨

氏 名 フリガナ 木村 志穂 キムラ シホ

学位の種類 博士（看護学）

学位記番号 甲第12号

学位授与年月日 平成26年3月20日

学位授与の根拠 岩手県立大学学位規則第3条第3項

学位論文題目 初孫を迎える祖父母に対する教育プログラムの開発と評価
 —子どもの両親との役割関係葛藤の解消に向けて—

Development and Evaluation of an Educational Program for Grandparents
 Expecting Their First Grandchild : For Resolving Role-Related Conflict
 between Grandparents and Parents

論文審査委員 主査 教授 武田 利明

副査 教授 福島 裕子

副査 教授 山内 一史

審査結果の要旨

本研究は、初孫を迎える祖父母を対象に、祖父母役割獲得の促進と、子どもの両親との関係性の強化に向けた教育プログラムを新規に開発し、評価したものである。本プログラムでは、現代の育児に関する知識や技術の提供を行うとともに、祖父母が子どもの両親と向き合う機会を設け、子どもの両親との関係性の強化を図るグループワークを設けた。グループワークでは助産師がファシリテーターとなり、家族員の思いを解釈し他の家族員に伝えていく役割を担った。その結果、本研究の教育プログラムは、産後3ヶ月時の祖父母の役割獲得を促進させ、役割関係葛藤が生じた際に子どもの両親を保護し、家族員間の調整を図ることにより、家族の関係性の強化に繋がることが明らかとなった。知識提供が中心の祖父母学級が普及する中において、妊娠中に祖父母が子どもの両親と向き合うグループワークを取り入れ、役割関係葛藤を解消できる予備能力を育成することに役立つ教育プログラムを新たに開発した点が、この研究の新規性である。

本プログラムでは育児における役割関係葛藤の解消に向けて、初孫を迎える祖父母に対して、現行のプログラムで行われている育児に関する知識や技術の提供に加え、妊娠中に家族で話し合う場を設けるグループワークを行ったことで、祖父母としての役割獲得を促進させ、家族関係の強化につながるという効果が得られた。すなわち、単に育児の知識を提供するだけではなく、家族の関係性にアプローチするというプログラムによって、本来家族の持っている機能を高めることができ、育児において役割関係葛藤が増大することな

く、祖父母としての役割を遂行することができたと考えられる。

本プログラムは2部構成となっており、第1部のテーマである「現代の育児を理解する」によって、祖父母としての育児対処能力が高まり、その上で、第2部のテーマである「子どもの両親との関係性の見直しを図る」によって家族が互いの思いを理解することができていた。その結果、産後3か月の時点において、祖父母として子どもの両親を手段的あるいは情緒的側面から支え、子どもの両親から頼られながら、家族全員で育児を遂行することができていた。以上のことから、妊娠中に祖父母と子どもの両親が集い、育児に向けて家族の関係性にアプローチしていく本教育プログラムは、育児において祖父母と子どもの両親との役割関係葛藤の増大を防ぐことに効果的であったと考える。

本教育プログラムでは祖父母だけではなく、子どもの両親の参加を促し、妊娠中に家族で話し合う場を設定したことで、育児において家族で随時話し合うことができ、役割関係葛藤の増大を防いでいた。今回参加した家族のうち、実父母と娘との関係においても、妊娠中にじっくり互いの役割について話す機会は少なく、祖母に対して子どもの両親から漠然とした依頼はあっても、具体的な話し合いの場をもつ家族は少ないことが明らかとなった。家族への介入方法には新生児訪問等もあるが、家族員全員が一度に集うことは難しい。そのため、今回のプログラムのように家族員全員を対象としたプログラムは重要であり、さらにグループワークにおいて1人1人が話す時間を十分に設け、互いの思いを知る機会を持つことは貴重な場であったと思われる。

以上のように本研究で開発した教育プログラムには、祖父母役割獲得の促進と、子どもの両親との関係性の強化に繋がるのが期待でき、現代社会の育児支援に貢献すると考える。このように、本研究は新規性を有し、看護の発展にも寄与する内容で博士論文に値すると考える。